

室戸ジオパーク 第5期実行計画(2024～2027)

大項目 (柱)	中項目 (重点)	小項目	実行計画				
			目的	実施事業	内容	実施主体・メンバー	
● みんなで 取り組む 室戸らしさの 継承と 発展	まもる	環境 をまもる	環境のモニタリングを継続して実施。横倉山自然の森博物館、高知大学海洋生物学研究室、牧野植物園との協力関係を生かして持続的なモニタリングを目指す。外来種の駆除を活用方法まで考えて実施する。	動物調査		無人カメラを設置して哺乳類を調査し記録にまとめ発信する。それ以外の希少動物についても発見情報を収集し発信する。	室戸ジオパーク推進協議会、観光ジオパーク推進課、国立室戸青少年自然の家、横倉山自然の森博物館、室戸高校、市民
				海洋生物調査		室戸半島周辺での海洋生物について、高知大学海洋生物学研究室や地元漁師の協力のもと記録に残す。研究成果について展示やHP等で発信する。	室戸ジオパーク推進協議会、観光ジオパーク推進課、高知大学海洋生物学研究室、漁業関係者、市民
				植物調査		牧野植物園の研究員と一緒に植物調査を行い、標本や写真などの記録を収集。気候変動の指標となりうる植物や、植物伝染病など植生変化に大きく影響するものは重点的に把握する。	室戸ジオパーク推進協議会、観光ジオパーク推進課、植物ボランティア、市民、牧野植物園、室戸市観光ガイドの会、高知県環境活動支援センター
				外来種の駆除と活用		室戸岬を中心に繁殖が見られるウチワサボテンやノジギク、アオノリュウゼツラン等の駆除やタンポポ調査を行う。駆除と活用方法の検討を外部団体と協力して進める。	室戸ジオパーク推進協議会、観光ジオパーク推進課、市民、室戸高校、生涯学習課、産業振興課、Fine Science Laboratory、室戸市観光ガイドの会、牧野植物園、高知県環境活動支援センター、中部大学
				海岸清掃と廃棄物の抑制策の検討		海岸漂着ごみの回収、漂着・漂流・海底ゴミの調査、環境教材としてごみの抑制策と組み合わせて進める。	室戸ジオパーク推進協議会、観光ジオパーク推進課、市民、まちづくり推進課、市民課、国立室戸青少年自然の家、漁業関係者、四国EPO
				エリア拡大と海洋資源の保全		海洋へのエリア拡大を進める中で、持続可能な海洋資源の保全について検討する。エリア内に含まれる海洋部分の管理や実施方法について、関係機関、漁業関係者と連携する。	室戸ジオパーク推進協議会、観光ジオパーク推進課、漁業関係者、産業振興課、高知県、国立室戸青少年自然の家、JGN
				気候変動への対策		環境モニタリングの結果等を踏まえ、生態系や環境の変化について、中長期で検討する。気候変動への緩和策や適応策について市民や事業所等の取組、他地域での参考となる取組について情報を収集、発信する。	室戸ジオパーク推進協議会、観光ジオパーク推進課、まちづくり推進課、産業振興課、市民
				サイト等の情報アップデート		定期的なサイトの巡視、変化の記録、サイトカルテのアップデートに向けて、年間計画を立て組織として実施する。	室戸ジオパーク推進協議会、観光ジオパーク推進課、室戸市観光ガイドの会、生涯学習課、市民

室戸ジオパーク 第5期実行計画(2024~2027)

大項目 (柱)	中項目 (重点)	小項目	実行計画				
			目的	実施事業	内容	実施主体・メンバー	
● みんなで 取り組む 室戸らしさの 継承と 発展	まもる	人を まもる	防災・減災: 被災後の避難所生活への対応、早期の復興に向けての計画について市民及び関係各所と検討する。	被災後の避難所生活への対応、避難場所の活用、事前復興策の検討、防災イベントの実施	被災直後の避難所生活についての学習(HUG、感染症対策等も検討)、避難タワー・シェルター等の日常的利用方法の検討、ジオ的観点からの事前復興案の検討、防災イベントの実施。	室戸ジオパーク推進協議会、観光ジオパーク推進課、市民、防災対策課、室戸青少年自然の家、社会福祉協議会	
			健康・福祉: 健康の社会的決定要因や健康格差に向けた社会環境づくりを協力機関とともに検討する。	安全に歩けるルートの開拓、参加しやすい地域活動の検討、新規サロン等の開設等	市民向けのウォーカブルなルートを開拓する。空き家等を活用したサロン、吉良川のぶっちょうの利用などによる交流の場づくりを通してソーシャルキャピタルの充実を図る。	室戸ジオパーク推進協議会、観光ジオパーク推進課、社会福祉協議会、保険介護課、高知県立大学、市民	
		文化 をまもる (ユネスコ4)	文化財指定された有形文化遺産だけでなく、風雨よけといった生活にもとづく景観等について検討する。	有形遺産の調査・保全、無形遺産の調査・記録、資料・記録のアーカイブ化	文化財登録をしていないものも含めて、広く有形遺産を捉えて調査を進める。民具、気候景観、鯨・マグロ漁関連資料等	室戸ジオパーク推進協議会、観光ジオパーク推進課、生涯学習課、市民	
			地域の祭りや伝統芸能、伝承、民話、音楽、産業技術等の調査、記録、伝統的食文化などの再現。			神祭、伝統芸能等既存の無形遺産目録に取り上げているもの以外に、テングサ、天のり、アザミ、海産物等、変化の大きい食文化の記録や郷土料理の再現等を市民とともに挙げる。	室戸ジオパーク推進協議会、観光ジオパーク推進課、生涯学習課、社会福祉協議会、市民
			資料・記録のアーカイブ化			有形・無形の文化遺産について、文献資料等の収集だけでなく、映像・写真等として館内展示できる形でアーカイブ化する。	室戸ジオパーク推進協議会、生涯学習課、まちづくり推進課、高知県歴史民俗資料館

室戸ジオパーク 第5期実行計画(2024~2027)

大項目 (柱)	中項目 (重点)	小項目	実行計画			
			目的	実施事業	内容	実施主体・メンバー
● みんなで 取り組む 室戸らしさの 継承と発展	まなぶ	子供と 「まなぶ」 の輪を 広げる	<p>室戸高校では「室戸学」や「ジオパーク学」が実施され、生徒たちがジオパークについて学ぶ機会がある。一方、市内の小中学校対象のジオパーク学習は学校によって利用率が異なり、小中学生がジオパークについて学ぶ機会は学校によって左右される。また、これまでに幼児がジオパークに触れる機会は少なかった。市内の中学生・児童・幼児がジオパークについて触れる機会を増やすことが課題だった。</p> <p>そこで、まなぶチームでは「子どもとまなぶ」「まなびを助ける」をキーワードに以下の3項目に取り組む</p> <p>①子供達がジオパークについてまなぶための教材やプログラムを開発</p> <p>②子供達にジオパークに興味を持ってもらために、ジオパークについてまなぶ・触れる機会をまなぶチームで設ける</p> <p>③高校生に教師役になってもらい、小学生や園児にジオパークを伝える役を担ってもらう</p>	子供向けの教材の開発	子供向けの教材の制作、ジオパークセンターや自然の家などの拠点施設で配布(絵本、道具、パンフレットなど)	室戸ジオパーク推進協議会、市民、学術顧問・アドバイザー
				まがり博士の挑戦状の新しいクイズの考案	館内展示のリニューアルに合わせ、まがり博士の挑戦状の内容を強化。	室戸ジオパーク推進協議会、市民
				子供向け絵画コンテストの開催	児童・生徒を対象に、ジオパークを題材にした絵画コンテストを実施。絵はジオパークセンターや青少年自然の家の中に掲示。	室戸ジオパーク推進協議会、市民、市内の小中学生・父兄、青少年自然の家スタッフ
				高校生向けガイド養成講座の開催と高校生のジオパーク学習への参加 (ユネスコ5)	室戸高校の生徒向けにガイド養成講座を実施、生徒に岬ガイドを習得してもらう。生徒には小・中学生のジオパーク学習でもガイドを務めてもらい、高校生が小中学生の教育に関わる機会を設定	室戸ジオパーク推進協議会、市民、ガイド団体、室戸高校の生徒・教職員、市内の小中学校
				室戸高校の生徒による「大地の成り立ち」演劇の実施と拡大	生徒は今後、市内の保育園で「大地の成り立ち」の演劇を広めていく。推進協議会と市民がその開催をサポート(車出し、制作作業の補助など)	室戸高校の生徒・教職員、室戸市子育て支援課、室戸ジオパーク推進協議会、市民
				「大地の成り立ち」の紙芝居の制作	「大地の成り立ち」マンガを紙芝居に落とし込む。それを市内の保育園、小学校低学年クラスで読み聞かせ(他のジオパークで実践例あり)さまざま場面に応用できるように、紙芝居の内容はデジタル化。	室戸高校の生徒・教職員、室戸市子育て支援課、室戸ジオパーク推進協議会、市民、
				動画コンテストの開催	室戸を題材にした動画コンテストの実施。入選した動画は自然の家で上映。動画コンテストを通じた室戸の魅力の再発見・掘り起こし。(同様のアイデアはひろめるチームからも提案。チーム間の連携を模索)	室戸ジオパーク推進協議会、市民、青少年自然の家スタッフ
		「まなび」、 備える	子ども向け防災クイズの実施	市内の小中学校で防災クイズの実施 クイズの内容は青少年自然の家の防災キャンプへ応用	室戸ジオパーク推進協議会、市民、市内の小中学校教職員(教育委員会)、防災対策課、青少年自然の家スタッフ、学術顧問・アドバイザー	
			防災読本の制作	児童向けの防災読本の構成や内容をまなぶチームで考案 読本は青少年自然の家の防災キャンプへ応用		
			室戸の直近の課題は人口減少と災害リスクである。防災に関わる教育ツールの開発に関わることで、災害への「まなび」を市内で広める			

室戸ジオパーク 第5期実行計画(2024~2027)

大項目 (柱)	中項目 (重点)	小項目	実行計画			
			目的	実施事業	内容	実施主体・メンバー
● みんなで 取り組む 室戸らし さの継承 と発展	まなぶ	「まなび」 から稼ぐへ	現在、室戸ジオパークが実施する「環境防災学習」は年間500人の児童生徒を市内に集めており、ある程度の成功を収めている。このような集客力のある学習プログラムを他に開発し、経済的利益も生み出す	新たな教育旅行やツアーの開発	<p>以下のような教育ツアーを開発</p> <p>1) 海洋ゴミをテーマにしたワークショップ形式の教育ツアープログラムを開発。まなぶチームがインストラクターとして参加。</p> <p>2) 遍路道を歩くツアーの開発。お遍路文化や歴史の掘り起こし。</p> <p>3) ユニバーサルデザインツアーの開発。その準備に向けた情報収集や勉強会の開催。</p> <p>ツアー参加者には青少年自然の家の宿泊利用を促進。 ツアーは修学旅行、大学のサークル合宿・フィールドワーク、企業研修での利用を視野に売り込む。</p> <p>ツアー収益化や営業は他のチームとの連携を模索 (まなぶ→ツアー開発, かせぐ→収益化, ひろめる→営業)</p>	室戸ジオパーク推進協議会、市民、市外の中高生、市外の観光客(巡礼者)青少年自然の家スタッフ、社会福祉協議会

室戸ジオパーク 第5期実行計画(2024~2027)

大項目 (柱)	中項目 (重点)	小項目	実行計画			
			目的	実施事業	内容	実施主体・メンバー
● みんなで 取り組む 室戸らし さの継承 と発展	もてなす	調査	もてなすために何をすべきかを明確にし、実施事業に反映させるために訪問者や室戸市民を対象に調査を実施する。	現地や拠点・観光施設等でのアンケート調査の実施、分析。	拠点施設へのアンケートの設置 ＜2027まで:設置箇所 8か所＞	室戸ジオパーク推進協議会 市民 拠点・観光施設
					観光施設(飲食、宿泊)へのアンケートの設置 ＜2027まで:設置箇所 40か所＞	
					拠点施設アンケートの集計・分析 ＜2027まで:アンケート回答数 6,000件＞	
					観光施設(飲食、宿泊)の集計・分析 ＜2027まで:アンケート回答数 3,250件＞	
		コンテンツ	ジオパークを活用して来訪者が楽しめる仕掛けをつくり、室戸観光の満足度を向上させる。	イベント開催 (ジオマルシェ 等) 企画展	ジオパークセンターを活用したジオパークの魅力発信企画の開催 ＜年1回＞	室戸ジオパーク推進協議会 市民 高校生 調査研究事業関係者
					ジオパークの特徴を生かしたマルシェの開催 ＜年1回＞	
					調査研究事業の成果発表を活用したフィールドワーク ＜年1回＞	
		受入体制	来訪者にとって観光情報がわかりやすい体制を作る。	・観光情報の質の向上(デジタル化)	室戸ジオパークのホームページ等に必要な応じた情報の公開 ＜月に1回見直し＞	室戸ジオパーク推進協議会 市民 拠点・観光施設 高校生
			拠点施設や観光施設と連携し、室戸市の観光満足度向上・来館者数の増加	・観光施設の受け入れ環境向上 ・拠点施設を活用したイベントの実施 ・ジオ拠点施設の有効活用	各拠点施設とジオストーリーとの関係を整理し、ジオパークセンターでポスター掲示を行う ＜2027まで:全施設＞	
			外国人観光客の受け入れ体制の強化	・インバウンド対応	施設の英語表示を増やし、インバウンド対応ができる体制を作る。 ＜2027まで:対応店舗数 40か所＞	
多様な食文化に対応した受入体制の推進	多様な食文化に対応を希望するお店のサポート		ガイド等に英語教育を行い、ジオパークの説明ができる程度にする。 ＜2027まで:4人＞			
拠点施設	室戸世界ジオパークセンター来館者数の増加 室戸市民の室戸世界ジオパークセンター利用の促進 ジオパーク関連施設の有効活用(ユネスコ4)	室戸世界ジオパークセンターのリニューアル ジオパーク拠点施設の有効活用 ジオツアー拠点施設の有効活用	・展示の追加、拡充、リニューアル、英語表記の追加とブラッシュアップ ・センターの施設追加整備	室戸ジオパーク推進協議会 市民		

室戸ジオパーク 第5期実行計画(2024~2027)

大項目 (柱)	中項目 (重点)	小項目	実行計画			
			目的	実施事業	内容	実施主体・メンバー
● みんなで 取り組む 室戸らしさの 継承と発展		商品開発 ・販路拡大	地域外から訪れる観光客に対して室戸の特産品やそれをイメージさせるお土産物を開発し、地元経済の活性化、自主財源の強化を図るとともに、収益をジオパーク活動に投入することによって持続可能な地域づくりを推進する(ユネスコ2)。	特産品を活用した商品開発及び販売	・お土産開発/販売 ・地元企業と連携した商品の開発	室戸ジオパーク推進協議会、民間業者
			JGNネットワークを活用し、各ジオパークの特産品の認知・販売拡大を図る(ユネスコ2)。	他のJGN加入地域との連携	他のJGN加入地域と連携し、各ジオパークの特産品の効果的な販売方法等の構築について検討する。	室戸ジオパーク推進協議会 JGN加入団体
	かせぐ	ジオツーリズム	室戸の一次産業を活性させ、素材の良さプラスアルファを商品化することを目的とする。	一次産業の活性化につながるツーリズム開発	春夏秋冬、1年を通じた収穫体験プログラムの開発	室戸ジオパーク推進協議会、農協、農家、漁協、漁師、各ガイド団体
			室戸ジオパークの各サイトなどを周遊する「まるっと室戸ジオツアー」の構築(ユネスコ2)	現在各地域で行われている体験プログラムやガイドツアーをとりまとめ、ニーズに合った新商品の造成を進めるとともに、文化的・歴史的な行事を活用し、室戸ジオパーク全体を体感できる商品開発をすすめる。	・室戸ジオパーク域内にあるそれぞれの素材をセットで販売するための営業/協力要請活動 ・神祭、季節の行事/イベントに合わせたツアーの開発・実施	室戸ジオパーク推進協議会、民間業者
			旅行者の滞在時間の延長に取り組む	当地に行かなければ体験できないものや食べられないものなどのオリジナル性、企画性のある旅行商品開発を地域内の連携によって造成する。併せて事業主体の役割の明確化と品質管理体制など、管理運営体制の明確化を図る。	・ツアーに宿泊と飲食の素材を組み合わせられるようなシステムを確立する。ただし、商品のPRIについては旅行業法に抵触しないように留意して実施する	室戸ジオパーク推進協議会、民間業者
			教育旅行の開発(ユネスコ2)	教育旅行を誘致するため、関係行政や観光関連組織と連携し、教育旅行に特化した推進体制を強化する。	・教育旅行に特化したツアールートを設定する(まなぶチームと連携)、各分野別のルートを設定する。 ・地質学的な要素だけでなく、文化、伝統、生物、歴史、環境などもツアーの中でストーリーとして伝えられるように提案する	室戸ジオパーク推進協議会、民間業者
			山間部は海岸沿いとは異なる文化や景観を持つため、これを活かしたトレイルツアーの開発(ユネスコ2)	山間を楽しむジオトレイルツアーの検討	・山間の集落の文化や伝統に関する情報を集め、ジオストーリーの作成を試みる。(重複:まもる、まなぶ) ・ジオストーリーをベースにしたトレイルツアーについて検討する。	室戸ジオパーク推進協議会、各ガイド団体、
			マーケティング	マーケティング及びモニターツアーの検討	アンケートとフィードバックの共有と活用	・旅行会社やツーリズム関連団体との連携 ・拠点施設への来館者情報の分析及びガイド等の参加者アンケートの結果の活用方法等を、旅行会社や高知県観光コンベンションと連携する(もてなすチームと連携)

室戸ジオパーク 第5期実行計画(2024～2027)

大項目 (柱)	中項目 (重点)	小項目	実行計画			
			目的	実施事業	内容	実施主体・メンバー
● みんなで 取り組む 室戸らしさの 継承と 発展	ひろめる	市民参加	これまでジオパーク活動に参加しなかった住民の関与を促す。地域に誇りを持ち地域を活性化させる。これまで関わっていなかった人が、ジオパークに興味を持つきっかけ作り(ユネスコ2)	写真や動画等のコンテスト開催	定期的なコンテストの実施による市内外への関与のきっかけを創出する	室戸ジオパーク推進協議会、観光協会、高知新聞、高知東部交通、市民
			ジオばた会議や各サークル等への参加・連携	各地域での積極的なジオばた会議の開催や各組織への会合に積極的に参加する	室戸ジオパーク推進協議会、市民、海外留学生	
		情報発信	学術的な地質情報を求めるビジターや研究者らに対応できるように、情報の整備を行う	SNS活用 ジオパークセンターを活用したオフラインでの交流	室戸ユネスコ世界ジオパークアカウントでのSNS毎日投稿	室戸ジオパーク推進協議会、室戸高校、市民
			訪問者にジオパークを知ってもらって、輪を広げる(ユネスコ3、4)		まがり博士に来館者が質問できる質問BOXを置く(ジオパークに関することから恋愛相談までジャンルを問わない)	
			ツアー、体験プログラムについての広報		質問の返答は紙に書いて館内のホワイトボード等に掲示	
			地元への活動情報の発信			
		ロゴの活用	ロゴマークの利用基準の確立(ユネスコ3、4)	ロゴマーク(室戸ジオパークのロゴ、室戸ユネスコ世界ジオパークのロゴ)の利用基準の作成	ロゴマークの利用基準をブランディングを利用者側の便益を想定したうえで作成する(ユネスコ3)	室戸ジオパーク推進協議会、室戸市内外事業者
				ロゴマークの積極的な使用促進	ロゴマークを添付することで売り上げ向上などの利益が地域コミュニティにわたるような成功例を作る	
					ロゴマークに合わせて、常にジオストーリーが語られることが重要(ユネスコ4)	